

ごあいさつ



私達公益社団法人春日井青年会議所（以下春日井JC）は、2018年の1月より素案・議題を作成して参りました。その中で春日井を活力あるまちにするためには、「労働人口世代の増加を促進させることが必要であり、近隣市町村に先んじて画期的な施策を講じ、具体的な行動を起こすことがこれまでにない人の流れを作り出す」と定義しました。そして市が提唱する「子育てのまち春日井」という市政キーワードと合わせることで、現在の幅広いライフスタイルに合わせた子育て支援の形「地元シニアによる預かり子育て事業の実施」を行政に向けて提言致します。

本リーフレットは、2018年11月18日にグルッポふじとう内体育館にて開催される政策提言書提出式典に合わせ、当団体の提言内容の概要の紹介を目的に作成しました。

ぜひ春日井JCホームページより我々の作成した政策提言書をご一読いただきたいです。そして私達とともに考え、行動していただけることを期待しております。

公益社団法人春日井青年会議所
第50代理事長 川村 吉秀



JCI Junior Chamber International Kasugai
公益社団法人 春日井青年会議所

政策提言書に関しては
こちらのホームページをご覧ください。
特設ページ <http://kasugai-jc.com/katsuryoku2018/>



発行元：公益社団法人春日井青年会議所
活力あるまち創造委員会

春日井市鳥居松町5丁目45番地 春日井商工会館内

電話：0568（81）8480
FAX：0568（84）2299

公益社団法人 春日井青年会議所
11月度例会

活力コンファレンス2018
～政策提言書提出式典～

開催日：2018年11月18日(日)

開催時間：15時～17時

開催場所：グルッポふじとう 体育館



(2018年度スローガン)
歴史がつなぐ、次代への活力。
今こそ示そうJCの力。

「おいでよ じいじとばあばの家」プラン

「おいでよ じいじとばあばの家」プランとは、地域の子は春日井にとってまさに鎧(かすがい)、将来の社会の担い手であり、ベッドタウンに住む働く世代の方達が安心して働けるよう、その地域っ子を預かるパッケージの愛称です。

まず、現在活動している押沢クラブと連携を進めていきます。

押沢クラブとは、空き家を改装し、コミュニティカフェを運営している地域のシニア団体で、代表の林正彦さん(74)は「来場者との会話の中で生活の困りごとを探りたい」とのこと。

住民交流を目的とした団体は幾つかありますが、身近なお隣さんはよく知らないという人もいます。地域の課題を把握したいと考えた林さんは、友人や校区の子ども会代表、学校長らを誘って話し合いを続けてきました。

その中で、孤立しがちな高齢社会では連携が必要との意見で一致。町内会をまたいで参加できる押沢クラブを昨夏結成しました。会員は38人。これまで集会所で月1回カフェを開き、毎回15人ほどが参加してきました。林さんは「困っているお年寄りの支援や放課後の子供受け入れなど、できることを見つけていきたい」と話しています。

林さんに、我々、活力あるまち創造委員会の「おいでよ じいじとばあばの家」プラン

をお話ししたところ快くご賛同いただき、8月、9月、10月に実施することにし、まずは対象者10人前後を周辺押沢台付近から募集することとしました。

今回の人、場所、お金の問題をクリアしたパッケージを成功事例とし地域全体に広げ、高齢者を受け入れやすいまちとして市外からの転入者が増え、人口増につながり、活力あるまちを創造します。



モデルケースの紹介

8月31日(金) 16時~18時

参加人数 小学生7名 5歳児2名 押沢クラブ4名

夏休み最後の週末での実施ということで、まず「休み中に色々遊んでくれた親御さんや周りの方への手紙」を子供達に書いてもらいました。「おやつ時間」を挟み、「クラフトワークや大人の塗り絵」等を押沢クラブの方々と実施しました。

・カリキュラム作りや備品の用意、押沢クラブの方々の役割作り等の課題を確認し、次回の開催時まで委員会にて検討・修正するよう確認しました。

事業風景写真



9月28日(金) 17時~20時

参加人数 小学生4名 押沢クラブ4名

みんなでたこ焼きパーティーを行いました。

初めて包丁を握る子供にも、シニア・JCメンバーで教えるなど普段の生活とは違う取り組みをしてもらいました。



10月12日(金) 18時~20時

参加人数 小学生5名 押沢クラブ4名

老若男女問わず参加できる「ポッチャ」というスポーツを行いました。初めての方が多かったのですが、みんな夢中になりました。



押沢クラブとは

2018年4月発足

代表 林 正彦

事務局 押沢台みんなの家

春日井市押沢台6丁目12番地7 0568(91)5653

会員数 38名

原則月6回、第3週を除く火、土曜午後1~4時に開催

高齢者の孤立化を防ぎ、生きがいづくりを促進するコミュニティカフェを実施。引きこもりがちな高齢者の外出支援および交流の場とし、地域活動の広がり貢献しています。

カフェ開催日以外でも1人100円で趣味の場として活用できるよう開放しています。

今後の活動のために

●システム利用者の包括的窓口の整備

→春日井市ファミリー・サポート・センター等と協同し、夜間保育システム利用者の送迎システムの確立。保育園終了後や小学校のなかよし教室・学童保育終了後に預けたい保護者に保育園、もしくは指定の送迎スポットにてお子様に待っていただくようにし、受け入れ者が車で巡回。

●空き家の実態把握

→「おいでよ じいじとばあばの家」プラン実施団体による空き家の把握、家主との連絡手段の確保が難しいことが場所を提供するうえでの課題

●シニア層の意識・質の向上

→モデルケースでご参加いただいたシニア層に、春日井市のファミリー・サポート・センターの講習を受講してもらい、子供の心理や子供の応急手当等を学んでいただき、継続的な活動の下地作りを行ってもらう。

●今後の子供の募集の方針

→地域の町内会・子ども会への情報提供を推進し、お子様達が学校からの帰りに安心して寄ることのできる場所を周知し活用していただきます。また、保護者に対しては夕方時間の使い方の提案として、急な用事の際の利用(歯医者など)・仕事から夕食の準備までの利用などを伝え、積極的に活用していただきます。

●行政への依頼事項

本事業の後見的なポジションとして、春日井市ホームページへの掲載。事業開催時の視察。

→事業に携わるボランティアの方々のやりがいの増加。お子様を預ける親御様の安心感の増加が見込まれます。

●押沢台クラブのような「おいでよ じいじとばあばの家」プランを今後実施する団体へ、有効利用できる空き家の情報共有→まずは実施場所である、空き家の情報を入手することにより、家主との連絡手段の確保から実施規模(受け入れる人数、シニアボランティアの調整等)の概要が決定できます。